

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490500071
法人名	特定非営利活動法人なごみ
事業所名	グループホームポラーノ
所在地	宮城県気仙沼市田中前四丁目6-5
自己評価作成日	令和 3年 8月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	令和 3年 9月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「穏やかな時間を共に過ごし、その人らしく、ありのままを受け入れます」をホーム理念に掲げ、職員全員が利用者様一人ひとりの気持ちに寄り添い、信頼関係を築いて、お互いを尊重できる関係性の維持に努めています。自宅で過ごしていたころと同じような生活環境の提供を心がけ、利用者様がやりたい事・達成感を得られる活動を考え、取り組んでいます。ホームの近くに川が流れており、桜並木があって散歩するには素晴らしい立地条件であり、また散歩を通して近隣の方々との関係を築くことができていると思います。コロナ禍により制限はありますが、家族様や馴染みの方々との関係が途切れないよう、できる限りの支援を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは気仙沼市街地の西方、神山川堤防沿いにあり、近くには中学校や商店、会社が多い環境にある。目標達成計画に掲げた運営推進会議の定期的な開催は、職員や管理者の積極的な取り組みで、計画通りに開催され目標を達成している。コロナ禍で、中学生の職場体験などの来訪は中止になったが、職員と一緒に林檎の収穫に行き、近隣住民にお裾分けに行ったり、地域との繋がりを大切にしている。入居者の好きな演歌でリズム体操をしたり、みんなでカラオケをするなど楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働けている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム ポラーノ )「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人が掲げる理念の他に、ホーム独自の介護理念を持っている。毎日の小ミーティング時と月一回の全体ミーティング時に理念を唱和し、自身の振り返りやケアの実践に繋げている。	ホーム理念、「穏やかな時間を共に過ごし、その人らしく、ありのままを受け入れます」を、年度始めの職員会議で継続と決めた。入居者の表情や動作を見逃さず、笑顔が見えるケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	川沿いを散歩時に一言二言程度ではあるものの挨拶を交わしたり、避難訓練の協力を依頼し参加していただいている。リンゴ狩りで収穫したリンゴを近所の方へお届けしている。	町内会に加入していないが、民生委員から、町内運動会が中止になった事や、踊りのボランティアがいる等の情報を得ている。恒例の中学生職場体験受け入れは、コロナ感染予防のため中止した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練等に参加いただいた際に、質問にお答えしたり、実際に介助をお手伝いいただいたりし、認知症の理解を深めるきっかけ作りを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため紙面での開催が主だが、令和2年度は計二回ホームへ足を運んでいただき、ご意見を頂いている。	昨年10月、11月に入居者状況の説明や行事報告をし、会議を開催した。室内で活発に活動している入居者の様子が見られ、地域包括職員から好評価だった。2カ月毎に書面会議を継続している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からコロナ対策に関する研修案内があり、市職員等をホームへ招き研修会を開催した。また、法人が地域包括支援センターや高齢者相談室を受託しており、より地域に近い活動を行って、協力関係の構築に努めている。	市職員から、ホームの職員や入居者にコロナ感染防止対策の話をして貰ったり、防護服の着脱やマスク脱着の正しい動作指導を受けた。県から消毒液やディスポ手袋、市からはマスクの提供があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、夜間の防犯目的をのぞき施錠していない。勉強会を開催し、情報を共有して身体拘束ゼロへの取り組みを行い、利用者様に寄り添った対応を心がけている。	3カ月毎に身体拘束廃止委員会を開催し、ケアを振り返っている。帰宅願望がある入居者には、行動を観察し不穏な表情が見えたら、散歩に誘ったり、話題を変えることで対応している。勉強会では、事例に基づいて検証しホーム内でのケアを振り返っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、情報を共有して日々の支援の中で虐待になっていないかという視点を忘れないよう務めている。また、職員間でも問題を抱えないよう、相談できる環境づくりに励んでいる。	スピーチロックにならない声掛けの工夫など、事例を出し合い職員全員で検討している。管理者は、職員がストレスを抱えないように、普段から気軽に話が出来る環境作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「まもりーぶ」を利用している利用者様が一名おられ、月一回の支援日には一か月の様子をお伝えし、信頼関係を築くよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約の際は、ご家族様の理解を得られるよう十分な説明を行っている。不安や疑問点があれば、納得いただけるようその都度丁寧な対応を心がけている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している他、面会時や電話連絡の際に本人の様子をお伝えし、ご家族様の要望等も伺うようにしている。ご家族様の想いや要望は記録に残し、ケアプランに反映させている。	家族からの要望や意見は、通院時や来訪時などに聞いている。家族から入居前からの習慣で毎日の入浴の要望があり、入居者と相談しながら応じている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時代表者と連絡を取り合い、ホーム全体の状況を把握されるよう努めている。また、職員とも報告・連絡・相談を密に行い、連携を図るよう心がけている。	職員から、緊急時対応の為のAED及び避難用の非常口増設の意見があり、AEDは直ちに对应し設置した。非常口については現在、法人本部に申請中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、妊娠中や育児中の職員への配慮や家庭の都合など、様々な労働条件を受け入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は個々の適性に合わせ、研修への参加を促すとともに、資格取得費用を全額補助している。また、研修報告を行い、職員全員で知識や技術を共有している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県グループホーム協議会や気仙沼介護サービス連絡協議会などの研修に参加する機会を設け、同業者との交流を推進している。	介護福祉士会から、コロナ感染防止対策研修会の連絡があり参加した。法人内で身体拘束や虐待防止の研修があり参加した。管理者は他の事業者と連絡を取り、コロナ禍におけるケアについて情報交換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見や要望に耳を傾け、想いを受け入れるよう努めている。また、会話や行動を観察し、安心して暮らしていけるような支援を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の意見や要望等を聞き、不安や疑問点など解消できるよう十分な説明を行い、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態を見極め、ご家族様の意向も確認しながら、必要なサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりに合わせた役割を持っていただいている。職員は常に利用者様に寄り添う姿勢を大切にしながら支援を行い、お互いの信頼関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者様の近況報告を行い、また、必要時には電話を入れ、ホームとのつながりを感じていただけるよう努めている。面会時には、安心して穏やかな時間を過ごしていただけるよう配慮している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかりつけ医を継続受診するなど、つながりを大切にしている。また、コロナ禍の為難しくはなっているが、馴染みの場所へドライブへ行ったりしている。	ほとんどの入居者が訪問理容を利用しており、理容師と馴染みになっている。家族と馴染みの美容室にパーマをかけに行く人もいる。入居前から利用していたスーパーへ行き、菓子を購入して来ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの席は、利用者様の性格や相性を考慮し、関りが持てるようにしている。また、利用者様同士でトラブルにならないよう職員が仲介している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した利用者様のご家族様が、古新聞やフルーツなどを届けてくださったり、その際にお互いの近況報告や情報交換を行っている。また、街中でお会いした際も同様で、声をかけさせていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との生活の中での会話や表情などから思いや希望をくみ取れるよう努めている。また、ご家族様から情報や協力をいただき、本人本位に検討するよう努めている。	ベランダから外を眺めている入居者を見て、外に出たい気持ちを把握し、花の水やりや散歩に誘うなどしている。日々の会話から、昔の楽しい思いを引き出せるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や趣味・趣向などの情報を収集し、職員間で共有することで、入居後も普段通りの暮らしを継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の日々の生活の様子や排泄状況を記録に残し、情報を共有している。月一回の全体ミーティング時に情報を再確認し共有することで、利用者様の最新の状況把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	小ミーティング・全体ミーティング・モニタリング等を含め、全職員で話し合い、プランに反映させるよう努めている。また、利用者様・ご家族様にも意向を伺い、希望に添えるよう定期的な見直しを行っている。	モニタリングでの情報や受診時の医師の意見をを入れて、3ヵ月毎に見直し計画を作成している。重度の入居者のレベル低下に伴い医師と相談し、計画書を見直し、区分変更の見直しなど家族に相談している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録や、排泄チェック表、業務日誌等に記入し、職員間で情報を共有している。また、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態やご家族様の都合などを考慮し、ご家族様対応の受診を職員が対応したり、必要に応じてご家族様と一緒に受診したりしている。その時々ニーズに合わせ、柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まもり一ぶの利用や、避難訓練の際にはご近所の方々との連携など、安心して豊かな生活が送れるよう支援に努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を受診し、適切な医療を受けられるよう医師との連携に努めている。受診した際は記録を作成し、全職員が状態把握に努めている。	入居者は、それぞれのかかりつけ医を受診し家族が付き添っている。受診後は受診結果を聞き取り「病院受診報告書」に記録し、職員間で共有している。訪問歯科受診の支援ができるよう準備中である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と異なる様子が見られた際は、かかりつけ医へ相談の電話を入れたり、緊急時には救急対応の医療機関へ連絡を入れている。必要に応じて、速やかに受診対応を取り入れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際は、ご家族様や主治医、医療連携室との情報交換を密に行い、退院時の調整に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成し、ご家族様へ説明をするとともに、同意を得ている。重度化する可能性がある場合、できるだけ早い時期に、本人様・ご家族様の意向を把握するよう努めている。また、かかりつけ医と相談し、必要なケア・対応ができるよう務めている。	看取りの指針「ポラーノに於ける看取り介護実施の定義」を作成し、家族に説明し同意を得ている。入居者の体調悪化に伴い入院する事例が多く、看取りの経験は無い。看取り介護の研修を受けたり、医師の協力体制を整えて、看取りに対応できるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時に備え、救急マニュアルを作成し、また、救急救命講習を受講した職員がいるので勉強会を開催し、全職員が緊急時に対応できるよう備えている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員と設備会社社会いのもと、年二回の避難訓練を行っている。また、避難訓練の際は近隣の方へ参加をお願いし、グループホームに対しての理解を深めていただくきっかけにもしている。	2月と6月に夜間想定を含む総合訓練をした。近隣住民の参加があり、避難時入居者の見守りを担当してもらった。個人名や連絡先が記された非常用リュックには衣類、衛生用品が入っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は日ごろから、利用者様の言葉を傾聴する姿勢を大切にし、一人ひとりに合ったケアの方法を考え、実践するよう努めている。また、利用者様に対し、否定するような言葉を使わないよう努めている。	基本呼び名は「さん」付けであるが、入居者の表情に応じて「ちゃん」付けで呼ぶこともある。居室へ入室の際は、ノックして声掛けをしている。居室に誰もいない時は、ドアを開放して置く事を職員間で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が遠慮なくお話いただけるよう、雰囲気や場所作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望を確認したうえで予定を組み入れ、可能な限り利用者様の希望に沿った支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った装いができるよう支援している。また、定期的に訪問理容を招いて対応している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや片付けなど一緒に行い、残存機能を活かす取り組みを行っている。イベント時には季節のもの、お誕生日には本人の好きなもの・食べたいものを提供している。	専従の調理員が、入居者の好みや季節の食材を取り入れて献立表や調理をしている。栄養バランスについて、法人栄養士が助言している。宅配寿司やドライブで外食をする事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事毎の摂取量・水分量を記録している。摂取量が少ない場合は補食を提供し、また、咀嚼や嚥下能力に合わせ食形態を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。利用者様の状態に合わせ、口腔ケアの見守り・支援を行っている。夕食後は義歯をお預かりし、洗浄・殺菌を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、各利用者様に合わせたタイミングでトイレ誘導を行っている。立位が難しい利用者様でも、負担にならない程度に、できる限りトイレでの排泄を促している。	入居者の表情や行動を把握し、早めにトイレ誘導をしている。ベッド上でおむつ交換している人が、排便時にトイレを使用する事で、座位保持ができ気持ちの良い排泄支援となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を処方されている利用者様もおられるが、薬だけに頼らず乳製品を提供したり、体操の時間を設け身体を動かし、スムーズな排便ができるよう努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	週二～三回の希望する時間帯に入浴支援している。入浴嫌いの利用者様には無理強いないで、体調や気分を見ながら声掛け等対応を工夫している。	ほとんどの入居者は、週2～3回の入浴としているが、毎日入りたい、寝る前に入りたい等の人には、希望に応じている。入浴を楽しめるように入浴剤を使用する等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	健康状態や生活リズムを把握し、室温や照明の調整をしたりし、安心できる環境作りに努めている。眠れないで離床された利用者様の話を傾聴したり、寄り添うことで安心していただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の医師や薬剤師からの説明や注意点を受診記録に記載し、全職員が内容を確認している。また、毎日の小ミーティングで変更内容等伝え、利用者様の状態変化に気付けるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意なことなどを把握し、生活の中で役割を持っていただけるよう努めている。また、可能な限りドライブや散歩など気分転換ができるよう支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様が受診対応の際、一時帰宅や夕食へ連れて行ってくださる他、ドライブへ行ったり、散歩や園庭へ出て外の空気を感じられるよう支援している。	法人の車を使用してあじさい園に行ったり、モーランドへドライブに行き、カレーライスを食べ楽しんできた。ホーム周辺を散歩しながら、自販機でジュースを買ったり生き生きと過ごせる工夫をして支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っている。利用者様から内容の開示の希望があった際にはお見せしている。嗜好品の購入については、職員が同行し過度に購入しないよう注意を払うなど支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居前から繋がりのあるご友人などへ電話を掛けたいと希望があった際や、利用者様あての電話はその都度対応し、途切れない関係性を維持している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの清掃・換気を毎日行い、清潔保持に努めている。また、ホームの中で過ごしていても季節を感じていただけるよう、四季折々の装飾を施している。	リビングは、1日2回空気の入れ換えをし、温湿度計で管理している。入居者が作成した十五夜の塗り絵等を飾っている。日々入居者が集い、軽体操をしたり、カラオケをして楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファや本棚を設置しており、独りになれる場所を設けている。また、気の合う利用者様同士、お互いの居室を歩き来して楽しいひと時を過ごされたりしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、ご家族様に馴染みのものをお持ちいただくようお願いし、タンスやテレビの設置、家族写真を飾るなど、居心地よく過ごせる環境を整えるよう努めている。	洗面台やベッド、クローゼットが設えてある。衣装ケースや筆筒、テーブル、テレビを持ち込んで居心地よく暮らせるようにしている。居室では、雑誌を見たり菓子を食べたり、個々に自由な時間を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態を把握し、居室・トイレ・浴室がわかるよう表示している。廊下・トイレ・浴室に手すりや滑り止めマットを使用し、安全で自立した生活が送れるよう努めている。		